

第 2 章 付属施設

1)	防護柵設置工	340
1)-1	ガードケーブル設置工	340
1)-2	落石防止網（繊維網）設置工	343
1)-3	立入り防止柵工	344
1)-4	車止めポスト設置工	347
1)-5	防雪柵設置及び撤去工	348
1)-6	防雪柵現地張出し・収納工	351
1)-7	雪崩発生予防柵設置工	353
1)-8	雪崩発生予防柵設置工（円形空洞型枠工，立入り防止柵工，柵板設置工）	357
1)-9	ボックスビーム設置工	360
1)-10	遮光フェンス設置工	361
1)-11	雪崩発生予防柵（PC 製）設置工	364
1)-12	落下物等防止柵設置工	366
2)	しゃ音壁設置工	367
2)-1	しゃ音壁設置工	367
2)-2	基礎杭打工（しゃ音壁）	376
3)	路側工	379
3)-1	路側工（据付け）	379
3)-2	路側工（取外し）	386
4)	特殊ブロック設置工	388
5)	組立歩道工	390
6)	橋梁付属施設設置工	394
7)	トンネル内装板設置工	398
8)	道路付属物設置工	400
9)	スノーポール設置・撤去工	402
10)	道路植栽工（客土工）（上層 30cm）	403

1) 防護柵設置工

1)-1 ガードケーブル設置工

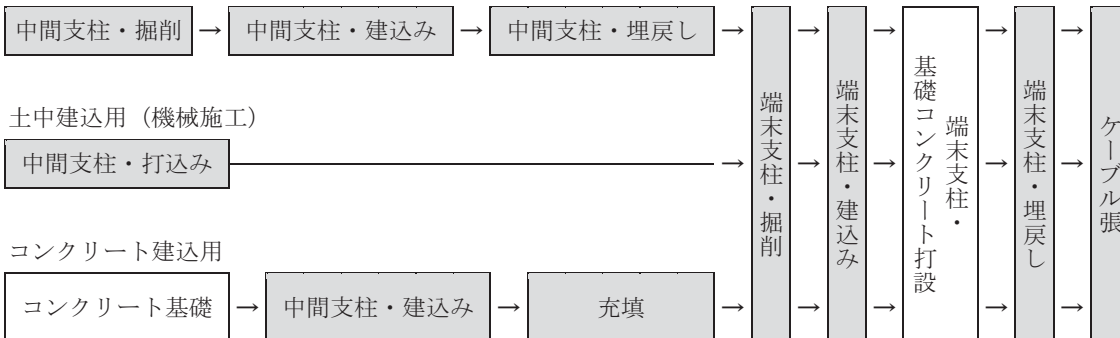
1. 適用範囲

本資料は、ガードケーブルの設置に適用する。ただし、耐雪型のガードケーブルには適用しない。

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。

土中建込用（人力施工）



（注）本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. ガードケーブルの種類

ガードケーブルの種類は、次表を標準とする。

表 3.1 ガードケーブルの種類

区分	土中建込中	コンクリート建込用	ケーブル条数
	規格	規格	
路側用	Gc-A-6E・5E・4E	Gc-A-4B	5
	Gc-B-6E・5E・4E	Gc-B-4B	4
	Gc-C-6E・5E・4E	Gc-C-4B	3
	Gc-S-4E	Gc-S-2B	6
分離帯用	Gc-Am-6E	Gc-Am-4B	8
	Gc-Bm-6E	Gc-Bm-4B	6

（注）土中建込用は機械打込を標準とし、機械打込できない場合は、人力建込とする。

4. 機種を選定

土中建込用中間支柱の打込みにおける規格は、次表を標準とする。

表 4.1 機種を選定

機械名	規格	単位	数量
ガードレール支柱打込機	モンケン式, 400~600kg	台	1

5. 日当り編成人員

日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 5.1 日当り編成人員 (人)

施工区分	端末支柱建込	中間支柱建込				ケーブル張
		機械打込		人力建込	コンクリート建込	
職種	普通作業員	土木一般世話役	普通作業員	普通作業員	普通作業員	普通作業員
単位	人	人	人	人	人	人
数量	4	1	4	4	4	3

6. 施工歩掛

日当り施工量は、次表を標準とする。

表 6.1 日当り施工量 (1日当り)

施工区分		単位	数量
端末支柱建込		本	9
中間支柱建込	機械建込	//	50
	人力建込	//	9
	コンクリート建込	//	17
ケーブル張	Gc-A-6E・5E・4E Gc-A-4B	m	60
	Gc-B-6E・5E・4E Gc-B-4B	//	75
	Gc-C-6E・5E・4E Gc-C-4B	//	100
	Gc-S-4E Gc-S-2B	//	50
	Gc-Am-6E Gc-Am-4B	//	38
	Gc-Bm-6E Gc-Bm-4B	//	50

- (注) 1. 上記歩掛には総て現場内小運搬を含む。
 2. ケーブル張の歩掛は、ガードケーブル施工延長当りの歩掛であり、ケーブル引伸し、取付け、ブラケット取付等を含む。
 3. 人力建込歩掛には、掘削、埋戻しを含む。
 4. コンクリート建込歩掛には、充填を含む。
 5. 舗装版の削孔が必要な場合は別途計上する。
 6. コンクリート基礎は別途計上する。
 7. 撤去する場合は、上記施工量の 2 倍とする。

7. 単価表

(1) 端末支柱 100 本当り単価表

種別	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	4×100/D	表 5. 1, 表 6. 1
端末支柱		本		
諸雑費		式	1	
計				

(注) D : 日当り施工量

(2) 中間支柱建込 (機械打込) 100 本当り単価表

種別	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×100/D	表 5. 1, 表 6. 1
普通作業員		〃	4×100/D	〃
中間支柱		本		
ガードレール支柱打込機運転	モンケン式 400~600kg	日	1×100/D	表 4. 1, 表 6. 1
諸雑費		式	1	
計				

(注) D : 日当り施工量

(3) 中間支柱建込 (人力建込) 100 本当り単価表

種別	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	4×100/D	表 5. 1, 表 6. 1
中間支柱		本		
諸雑費		式	1	
計				

(注) D : 日当り施工量

(4) ケーブル張 100m 当り単価表

種別	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	3×100/D	表 5. 1, 表 6. 1
ガードケーブル		m		
諸雑費		式	1	
計				

(注) D : 日当り施工量

(5) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
ガードレール支柱打込機	モンケン式 400~600kg	機-19	運転労務数量 →1. 00 燃料消費量 →35 機械損料数量 →1. 25

1)-2 落石防止網（繊維網）設置工

1. 施工歩掛

落石防止網（繊維網）設置の歩掛は次表とする。

表 1.1 落石防止網（繊維網）

(100m2 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
ネット	ポリエチレン 37.5×37.5	m2	101.3	
普通作業員		人	5.2	

(注) 1. 仮設材として使用する場合は損率を 30%とする。

2. 撤去する場合は上記歩掛の普通作業員の 50%とする。

2. 単価表

(1) 落石防止網（繊維網）設置 100m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	5.2	表 1.1
ネット	ポリエチレン 37.5×37.5	m2	101.3	〃
諸雑費		式	1	
計				

1)-3 立入り防止柵工

1. 適用範囲

本資料は、立入り防止柵の基礎ブロック、金網（フェンス）、支柱の設置・撤去・再利用設置に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 基礎ブロック

- (1) 柵高 2m 以下、支柱間隔 2m の人力建込みによる立入り防止柵の基礎ブロックの場合

1-1-2 金網（フェンス）・支柱

- (1) 柵高 2m 以下、支柱間隔 2m の人力建込みによる立入り防止柵の金網（フェンス）・支柱の場合

1-1-3 支柱

- (1) 柵高 2m 以下、支柱間隔 2m の人力建込みによる立入り防止柵の支柱の場合

2. 施工パッケージ

2-1 基礎ブロック（立入防止柵），金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）
 【SPK14040165】 【SPK14040166】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 2.1 積算条件区分一覧 (基礎ブロック 積算単位：個)
 (金網（フェンス）・支柱 積算単位：m)

作業区分
設置
撤去
再利用設置

(注) 1. 設置の場合（材料込みの新設置）

- ・ 管理施設等への立入を防止するために行う金網柵（柵高 2m 以下，支柱間隔 2m）のプレキャスト基礎ブロックの設置，支柱設置，金網設置（胴縁取付・金網張立），作業土工（床掘り・埋戻し），充填材（モルタル）の混練及び打設等，その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2. 撤去の場合

- ・ 管理施設等への立入を防止するために行う金網柵（柵高 2m 以下，支柱間隔 2m）のプレキャスト基礎ブロックの撤去，支柱撤去，金網撤去等，その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

3. 再利用設置（設置手間のみの流用品）の場合

- ・ （注）1 の設置費のみを含む（基礎ブロック本体の材料費及び支柱本体の材料費は含まない）。
- ・ 撤去に要する費用は含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている代表的な規格である。

表 2.2 基礎ブロック（立入防止柵），金網（フェンス）・支柱（立入防止柵） 代表機労材規格一覧

名称	項目	代表機労材規格	備考	
基礎ブロック （立入防止柵）	機械	K1		
		K2		
		K3		
	労務	R1	普通作業員	
		R2	土木一般世話役	
		R3		
		R4		
	材料	Z1	基礎ブロック フェンス用ブロック 18×55×45(cm)	設置の場合
		Z2		
		Z3		
		Z4		
市場単価	S			
金網（フェンス）・ 支柱（立入防止柵）	機械	K1		
		K2		
		K3		
	労務	R1	普通作業員	
		R2	土木一般世話役	
		R3		
		R4		
	材料	Z1	金網柵 H2000 アングル型 ビニル被覆 V-GS2 3.2×50	設置の場合
		Z2		
		Z3		
		Z4		
市場単価	S			

2-2 支柱【SPK14040167】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 2.3 支柱 積算条件区分一覧

(積算単位：本)

作業区分
設置
撤去
再利用設置

(注) 1. 設置の場合

- ・ 支柱設置、充填材（モルタル）の混練及び打設等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、支柱本体の材料費は含まない。

2. 撤去の場合

- ・ 支柱撤去等、その施工に必要な全ての機械・労務を含む。

3. 再利用設置（設置手間のみの流用品）の場合

- ・ （注）1 の設置費のみを含む（支柱本体の材料費は含まない）。
- ・ 撤去に要する費用は含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 2.4 支柱 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1	—
	K2	—
	K3	—
労務	R1	普通作業員
	R2	土木一般世話役
	R3	—
	R4	—
材料	Z1	—
	Z2	—
	Z3	—
	Z4	—
市場単価	S	—

2-3 支柱（材料費）

(1) 条件区分

支柱（材料費）における積算条件区分はない。

積算単位は「本」とする。

1)-4 車止めポスト設置工

1. 適用範囲

本資料は、車止めポストの設置、撤去、撤去再設置作業に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 車止めポスト

- (1) φ114.3mm L=1.4m 程度のもの

2. 施工パッケージ

2-1 車止めポスト【SPK14040169】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 2.1 車止めポスト 積算条件区分一覧 (積算単位：本)

作業区分	
	設置
	撤去
	撤去再設置

(注) 1. 車止めポストの設置等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

- 2. 基礎ブロックの設置は含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 2.2 車止めポスト 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	車止めポスト ピラー型 取外し式径 114.3mm 高さ 850mm スチール	設置、撤去再設置の場合
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

1)-5 防雪柵設置及び撤去工

1. 適用範囲

本資料は、防雪柵の設置及び撤去に適用する。また、種別及び施工方法は、次表を標準とする。

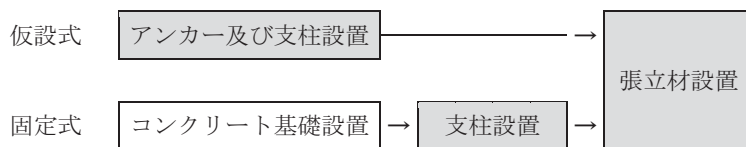
表 1.1 防雪柵の種別及び施工方法

種別	取付区分	張立材の種類	支柱の支持方法	柵高
吹溜式	仮設式	防雪板又は防雪網	土中に支柱を打込む又は土中にアンカーを打込み固定する	3.5m 以下
				3.5m を超え 6.0m 以下
	固定式	防雪板	コンクリート基礎に固定する	5.0m 以下
吹払式	仮設式	防雪板	土中にアンカーを打込み固定する	4.0m 以下
	固定式	防雪板	コンクリート基礎に固定する	4.0m 以下

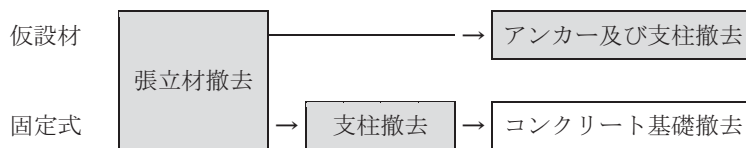
2. 施工概要

防雪柵の施工フローは、図 2-1 による。

設置作業



撤去作業



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

図 2-1 施工フロー

3. 日当り編成人員及び機種種の選定

日当り編成人員及び機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.1 日当り編成人員及び機種種の選定

(1 日当り)

作業種別	取付区分	柵高	職種 (人)		使用機械 (台)		
			土木一般世話役	普通作業員	名称	規格	台数
吹溜式	仮設式	3.5m 以下	1	7	トラック (クレーン装置付)	4 t 積 2.9 t 吊	1
		3.5m を超え 6.0m 以下	1	7	トラック (クレーン装置付)	4 t 積 2.9 t 吊	1
	固定式	5.0m 以下	1	5	トラック (クレーン装置付)	4 t 積 2.9 t 吊	1
吹払式	仮設式	4.0m 以下	1	7	トラック (クレーン装置付)	4 t 積 2.9 t 吊	1
	固定式	4.0m 以下	1	5	トラック (クレーン装置付)	4 t 積 2.9 t 吊	1

4. 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表 4.1 日当り施工量 (1 日当り)

種別	取付区分	柵高	単位	設置		撤去	
				支柱+張立柱	張立柱のみ	支柱+張立柱	張立柱のみ
吹溜式	仮設式	3.5m 以下	m	87	201	114	264
		3.5m を超え 6.0m 以下	〃	56	128	73	170
	固定式	5.0m 以下	〃	29	68	38	88
吹払式	仮設式	4.0m 以下	〃	67	155	88	203
	固定式	4.0m 以下	〃	39	90	51	118

(注) 上記歩掛には、現場内小運搬を含む。

5. 諸雑費

諸雑費は、脚立及び工具の損料等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 5.1 諸雑费率

名称	単位	設置	撤去
諸雑費	%	0.6	0.6

6. 単価表

(1) ○○式防雪柵 (仮設式) 設置及び撤去 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×100/D	表 3.1, 表 4.1
普通作業員		〃	7×100/D	〃
○○式防雪柵		m		必要に応じて設置の場合に計上
トラック (クレーン装置付)	4t 積 2.9t 吊	日	1×100/D	表 3.1, 表 4.1
諸雑費		式	1	表 5.1
計				

(注) D: 日当り施工量

(2) ○○式防雪柵 (固定式) 設置及び撤去 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×100/D	表 3.1, 表 4.1
普通作業員		〃	5×100/D	〃
○○式防雪柵		m		必要に応じて設置の場合に計上
トラック (クレーン装置付)	4t 積 2.9t 吊	日	1×100/D	表 3.1, 表 4.1
諸雑費		式	1	表 5.1
計				

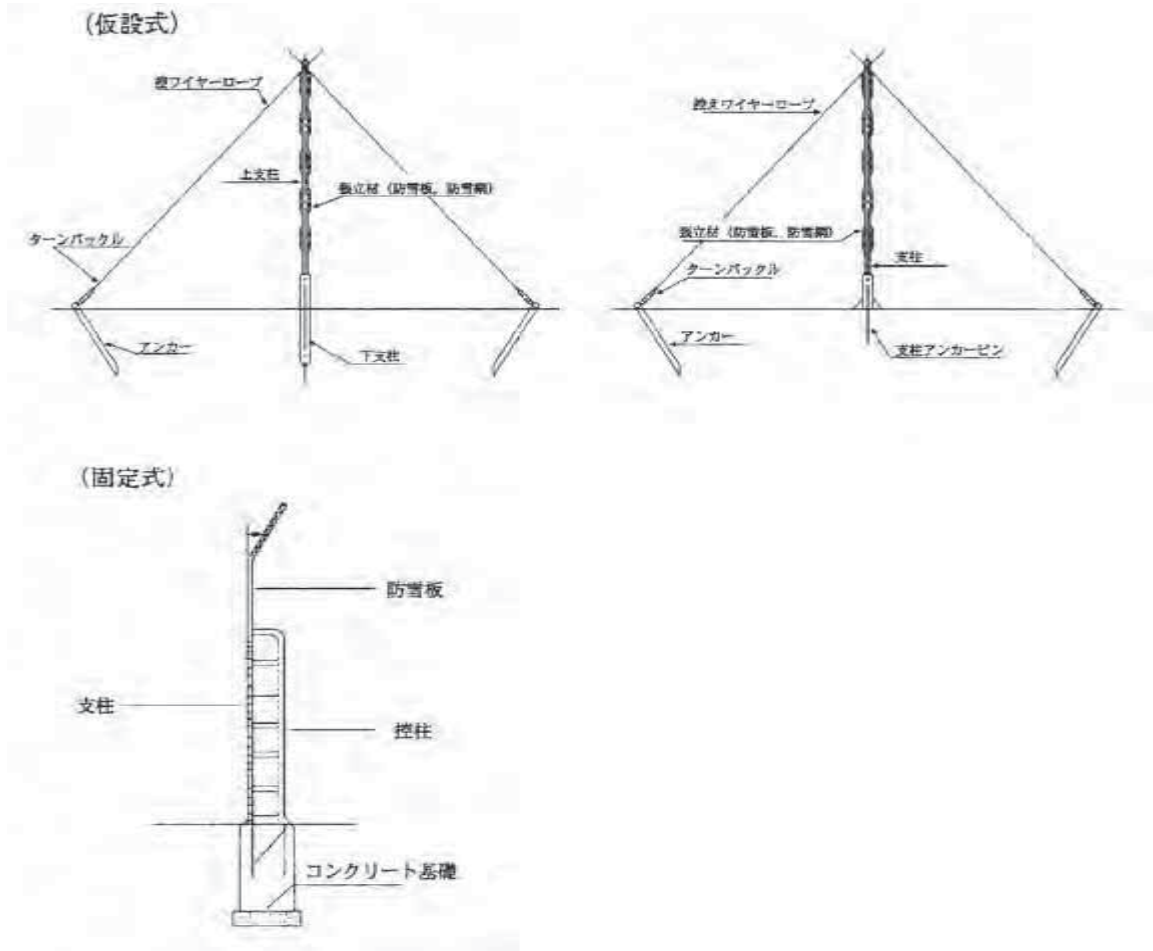
(注) D: 日当り施工量

(3) 機械運転単価表

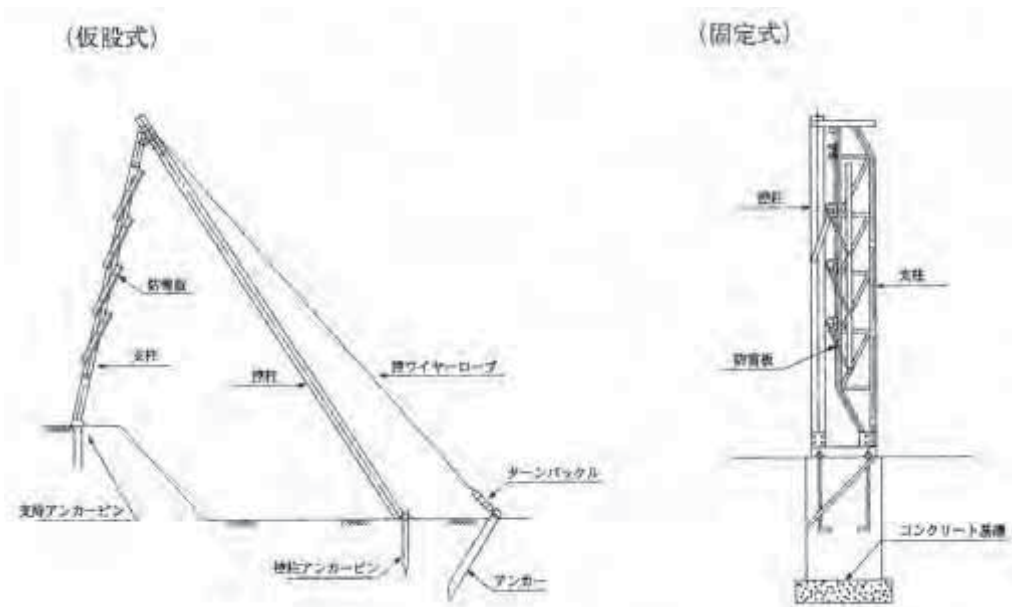
機械名	規格	適用単価表	指定事項
トラック (クレーン装置付)	4t 積 2.9t 吊	機-18	運転労務数量 →0.70 燃料消費量 →18 機械損料数量 →1.06

7. 防雪柵の概念図 (参考)

(1) 吹溜式防雪柵



(2) 吹払式防雪柵



1)-6 防雪柵現地張出し・収納工

1. 適用範囲

本資料は、現地収納式防雪柵の張出し及び収納に適用する。また、防雪柵の種類及び高さ・支間長は、次表を標準とする。

表 1.1 防雪柵の種類及び高さ・支間長

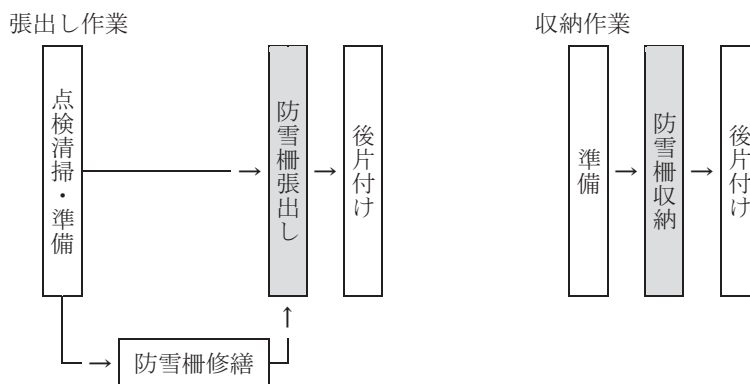
種類	収納方式	柵高	支間長
吹払式又は吹止式	支柱・防雪板下部収納 (連動型・単動型)	4.3m 以下	4.0m 以下

- (注) 1. 柵高は、張出し状態における支柱固定端から支柱・防雪板を問わず最上端となるまでの高さとする。
 2. 支間長は、支柱の中心間長さとする。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

図 2-1 施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 編成人員

防護柵現地張出し・収納工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 3.1 日当り編成人員 (人)

作業の種類	土木一般世話役	普通作業員
張出し	1	4
収納	1	4

4. 施工歩掛

日当り施工量は、次表を標準とする。

表 4.1 日当り施工量 (1日当り)

作業の種類	単位	数量
張出し	m	186
収納	〃	214

5. 諸雑費

諸雑費は、脚立及び工具の損料等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 5.1 諸雑费率 (%)

張出し	0.1
収納	0.1

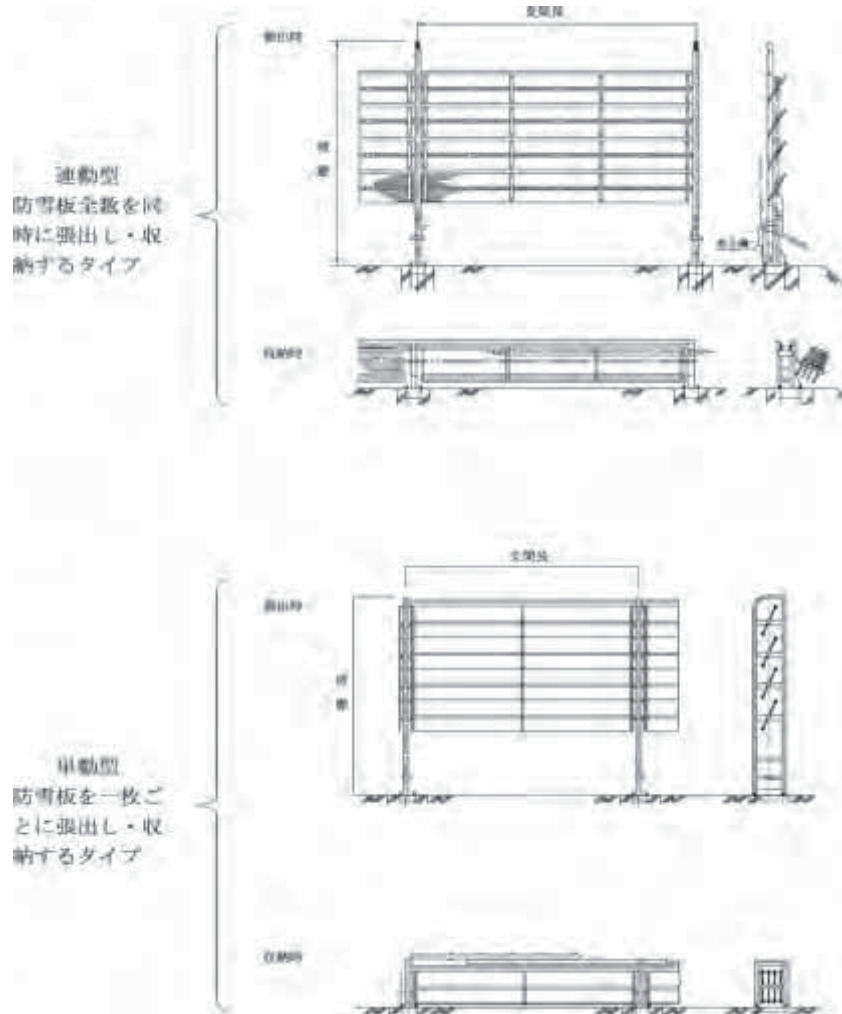
6. 単価表

(1) 張出し・収納 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	1×100/D	表 3.1, 表 4.1
普通作業員		〃	4×100/D	〃
諸雑費		式	1	表 5.1
計				

(注) D: 日当り施工量

7. 現地収納式防雪柵（吹払式）の概念図（参考）



1)-7 雪崩発生予防柵設置工

1. 適用範囲

本資料は、固定基礎を有する固定柵及び固定アンカーを有しワイヤで柵を吊っている吊柵のうち 1 基当り柵長が 6m 以下、柵高が 3m 以下の鋼製の雪崩発生予防柵に適用する。ただし、吊柵には適用しない。

2. 機種の選定

資材持上げ用の機械・規格は、次表を標準とする。

表 2.1 機種の選定

持上げ機械 持上げ範囲	トラッククレーン (油圧伸縮ジブ型)	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型] 排出ガス対策型(第 1 次基準値)	簡易ケーブルクレーン
～15m 未満	4.9t 吊	—	巻き上げ能力 1.0t (エンジン式)
15m 以上～20m 未満	—	20t 吊	
20m 以上～25m 未満	—	35t 吊	
25m 以上～45m 以下	—	—	

- (注) 1. 持上げ範囲は、トラッククレーン及びラフテレーンクレーンの場合は機械設置地盤からの最大持上げ高までの直高とし、簡易ケーブルクレーンの場合は資材仮置面から最大持上げ高までの直高とする。
2. 持上げ機械はトラッククレーン又はラフテレーンクレーンを標準とするが、トラッククレーン又はラフテレーンクレーンの使用が困難な場合は、簡易ケーブルクレーンを使用するものとし、その持上げ範囲は 130m までとする。
- なお、現場条件により上記機種が困難な場合は別途考慮する。

3. 施工歩掛

3-1 柵の設置歩掛

固定柵、及び吊柵の設置歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 柵の設置歩掛

(1 基当り)

名称	規格	単位	数量	
			固定柵	吊柵
土木一般世話役		人	0.3	0.3
普通作業員		〃	0.5	0.7
法面工		〃	1.4	1.0
トラッククレーン運転	油圧伸縮ジブ型	日	0.4	0.2
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第 1 次基準値)	〃	0.4	0.2
簡易ケーブルクレーン運転	エンジン式巻き上げ能力 1.0t	〃	0.4	0.4

- (注) 1. 固定柵設置歩掛には柵の組立、設置を含み、基礎部分の土工、コンクリート工、型枠工、足場工等は含まない。
2. 吊柵設置歩掛には、柵の組立、設置及びワイヤの加工、設置を含み、吊柵アンカーの設置は含まない。
3. 資材持上げ用機械は表 2.1 より選定し、トラッククレーン又はラフテレーンクレーン又は簡易ケーブルクレーンのいずれかを計上する。
- なお、資材持上げ用機械による運搬作業には、柵、ワイヤ、アンカー及び基礎部分の型枠、足場等資材の運搬が含まれる。
4. 基礎工事で土工、コンクリート工、型枠工、足場工等が必要な場合は、別途計上する。
5. トラッククレーン及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。

3-2 吊柵アンカーの設置歩掛

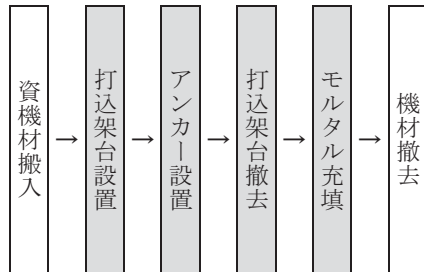
3-2-1 適用範囲

本資料は、吊柵アンカーのうちパイプアンカー（φ114.3mm，長さ 2.0～3.0m）及び樹脂アンカー（φ32・36mm，長さ 1.7m）の設置に適用する。

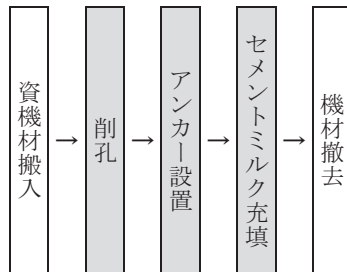
3-2-2 施工概要

施工フローは下記を標準とする。

(1) パイプアンカー



(2) 樹脂アンカー



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3-2-3 アンカーの設置歩掛

パイプアンカー及び樹脂アンカーの設置歩掛は、次表を標準とする。

表 3.2 パイプアンカー設置歩掛（1 本当り）

名称	規格	単位	数量
土木一般世話役		人	0.12
法面工		〃	0.50
諸雑费率		%	20

(注) 1. 適用土質は、レキ質土，砂質土，粘性土，岩塊・玉石混り土とする。

2. 諸雑費は、空気圧縮機の運転経費及び打込用架台，削岩機，動噴ポンプ，水タンクの損料，エアホース，水ホースの損耗費，モルタル等の費用であり，労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 3.3 樹脂アンカー設置歩掛（1 本当り）

名称	規格	単位	数量
土木一般世話役		人	0.12
法面工		〃	0.45
諸雑费率		%	10

(注) 1. 適用土質は、軟岩，硬岩とする。

2. 諸雑費は、空気圧縮機の運転経費及び削岩機，エアインパクトの損料，エアホース，ロッド，ビットの損耗費，セメントミルク等の費用であり，労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3-3 簡易ケーブルクレーン設置・撤去歩掛

簡易ケーブルクレーン（巻上げ能力 1.0t）の設置・撤去歩掛は次表を標準とする。

表 3.4 簡易ケーブルクレーン設置・撤去歩掛（1 基当り）

名称	規格	単位	数量
とび工		人	20
普通作業員		〃	20
諸雑費率		%	8

- (注) 1. 設置基数は、現場条件又は、布設箇所への現場内小運搬等を考慮して決定する。
 2. 法面等で足場工が必要な場合は、別途計上する。
 3. 諸雑費は、コンクリート、型枠等基礎工事に必要な材料の費用であり労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4. 単価表

(1) 雪崩発生予防柵 1 基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 3.1
普通作業員		〃		〃
法面工		〃		〃
トラッククレーン賃料 又は ラフテレーンクレーン賃料 又は 簡易ケーブルクレーン運転		日		表 3.1, 表 2.1
予防柵		基	1	
諸雑費		式	1	
計				

(2) 吊柵アンカー（パイプアンカー）設置 1 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 3.2
法面工		〃		〃
パイプアンカー		本	1	
諸雑費		式	1	表 3.2
計				

(3) 吊柵アンカー（樹脂アンカー）設置 1 本当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 3.3
法面工		〃		〃
樹脂アンカー		本	1	
諸雑費		式	1	表 3.3
計				

(4) 簡易ケーブルクレーン設置・撤去 1 基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
とび工		人	20	表 3.4
普通作業員		〃	20	〃
諸雑費		本	1	〃
計				

(5) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
簡易ケーブルクレーン	エンジン式巻上げ能力 1.0t	機-23	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →6.0 機械損料数量 →1.53

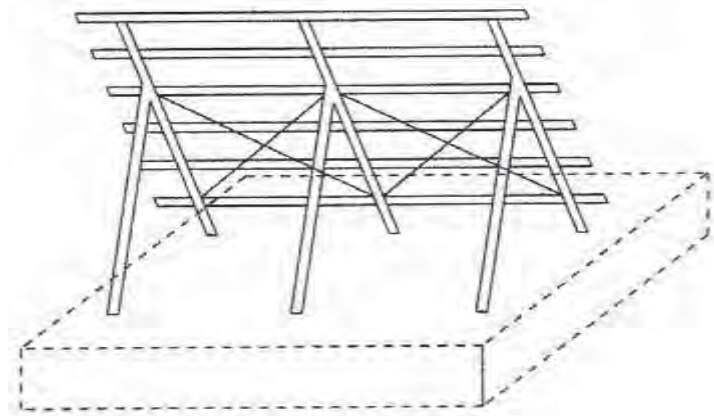
(参考)

雪崩発生予防柵設置工の種類

雪崩発生予防柵の種類は下図のとおりである。

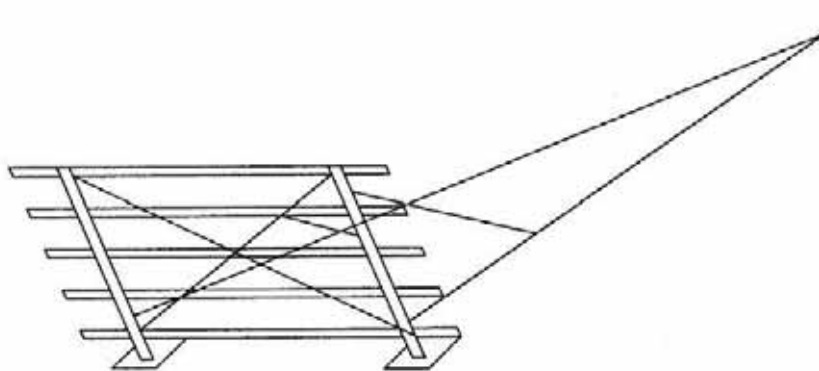
- 1) 固定柵……固定基礎を有する柵

図-1



- 2) 吊柵……固定アンカーを有しワイヤ等で柵を吊っているもの

図-2



1)-8 雪崩発生予防柵設置工（円形空洞型枠工，立入防止柵工，柵板設置工）

1. 円形空洞型枠

1-1 適用範囲

防護柵の支柱をコンクリート構造物に根入れするために，コンクリート打設に先立ち施工する円形空洞型枠（紙製）工の設置に適用する。

1-2 施工歩掛

施工歩掛は，次表を標準とする。

表 1.1 設置歩掛（100m 当り）

名称	単位	数量
普通作業員	人	2
型枠材料	m	105

- （注）1. 上表の型枠材料には，ロス等を含む。
 2. 上表は，型枠延長 100m 当りの歩掛である。
 3. 型枠は全損とする。

1-3 単価表

(1) 円形空洞型枠設置 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	2	表 1.1
型枠材料		m	105	〃
諸雑費		式	1	
計				

2. 立入防止柵

2-1 適用範囲

安全対策のための立入防止柵で、木杭、鉄線を用いて設置する場合に適用する。

2-2 施工歩掛

施工歩掛は、次表を標準とする。

表 2.1 設置歩掛 (100m 当り)

名称	単位	数量
普通作業員	人	4.5

(注) 杭木小運搬, 先端仕拵え, 元口切拵え及び足場損料一切を含む。

2-3 諸雑費

諸雑費は、木杭、鉄線の材料費用であり、労務費に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

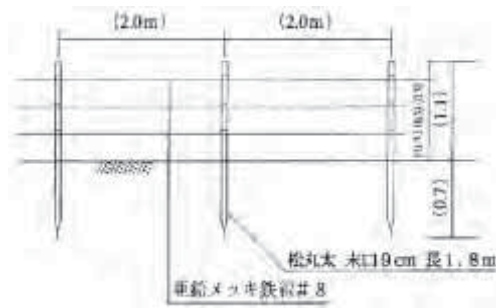
表 2.2 諸雑费率 (%)

諸雑费率	25
------	----

2-4 単価表

(1) 立入防止柵設置 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	4.5	表 2.1
諸雑費		式	1	表 2.2
計				



3. 柵板設置工

3-1 適用範囲

柵板の設置に適用する。

3-2 施工歩掛

施工歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 設置歩掛 (100 枚当り)

1 枚当り長さ (mm)		1000	1500, 2000
名称	単位		
普通作業員	人	3	4

(注) 1. 杭打については、別途計上すること。

2. 撤去する場合は、上記歩掛の 50%とする。

3-3 単価表

(1) 柵板 100 枚当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.1
柵板		枚	100	
諸雑費		式	1	
計				

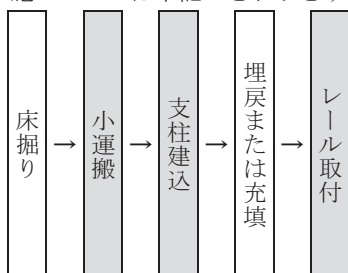
1)-9 ボックスビーム設置工

1. 適用範囲

本資料は、ボックスビームの設置に適用する。

2. 施工概要

施工フローは下記のとおりとする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 施工歩掛

3-1 ボックスビーム（支柱）設置

表 3.1 ボックスビーム設置歩掛（100m 当り）

名称	規格	単位	数量
普通作業員		人	9

(注) 1. 上記歩掛は、ボックスビーム（支柱）設置の一連作業であり現場内の小運搬を含む。
2. 支柱間隔は 2m/本を標準とする。

3-2 ボックスビーム（レール）取付

表 3.2 ボックスビーム取付歩掛（100m 当り）

名称	規格	単位	数量
普通作業員		人	4

(注) 上記歩掛は、ボックスビーム（レール）取付の一連作業であり現場内の小運搬を含む。

4. 単価表

(1) ボックスビーム（支柱）設置 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	9	
材料費		m	100	
諸雑費		式	1	
計				

(2) ボックスビーム（レール）取付 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	4	
材料費		m	100	
諸雑費		式	1	
計				

1)-10 遮光フェンス設置工

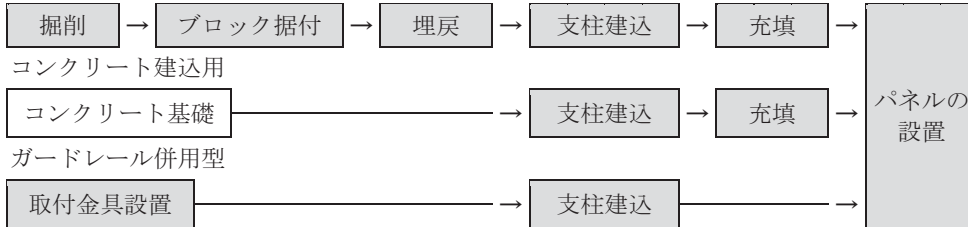
1. 適用範囲

本資料は、中央分離帯等に遮光を目的に設置する遮光フェンスに適用する。

2. 施工概要

施工フローは下記のとおりとする。

プレキャストコンクリートブロック建込用



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

図 2-1 施工フロー

3. 設置歩掛

3-1 遮光フェンス

3-1-1 施工歩掛(人力建込)

施工歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 施工歩掛 (100m 当り)

名称	単位	職種	支柱間隔	
			3m	4m
プレキャストコンクリートブロック建込用	人	普通作業員	8.2	6.9
コンクリート建込用	〃	〃	4.9	4.4

- (注) 1. 上記歩掛には、建込、パネル取付、現場内小運搬を含む。
 2. プレキャストコンクリートブロック建込用歩掛には、掘削、ブロック据付、埋戻、充填を含む。なお、プレキャストコンクリートブロックの材料は、別途計上する。
 3. コンクリート建込用歩掛には、充填を含む。なお、現場打ちコンクリートの基礎・コンクリートの削孔は、別途計上する。
 4. 撤去する場合は、上記歩掛の 50%とする。

3-1-2 諸雑費

諸雑費は、充填材（ブロンアスファルト、砂等）の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた額を上限として計上する。

表 3.2 諸雑費

名称	単位	数量
プレキャストコンクリートブロック建込用	%	2
コンクリート建込用	〃	2

3-1-3 パネルのみの設置

施工歩掛は、次表を標準とする。

表 3.3 施工歩掛 (100m 当り)

名称	単位	数量
普通作業員	人	3

(注) 撤去する場合は、上記歩掛の 50%とする。

3-2 遮光フェンスガードレール併用型設置工

施工歩掛は、次表を標準とする。

表 3.4 施工歩掛

(100m 当り)

名称	単位	片面ガードレール併用型	両面ガードレール併用型
普通作業員	人	8	6

- (注) 1. 上記歩掛は、ガードレール支柱間隔 2m の場合であり、建込、パネル取付、現場内小運搬を含む。
 2. 撤去する場合は、上記歩掛の 50% とする。
 3. 取付金具等は、別途計上する。

4. 単価表

(1) 遮光フェンス (人力建込) 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.1
遮光フェンス		m	100	
プレキャストコンクリートブロック		基		必要に応じて計上
諸雑費		式	1	表 3.2
計				

(2) 遮光フェンスのパネルのみ取付 100m 当り単価表

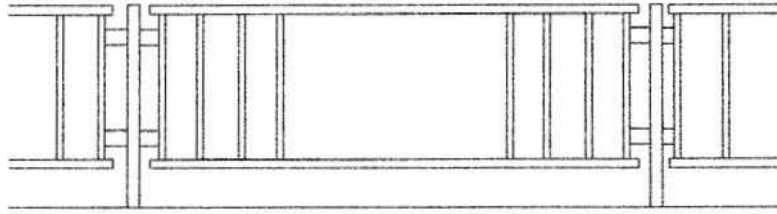
名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.3
遮光フェンス		m	100	パネルのみ
諸雑費		式	1	
計				

(3) 遮光フェンスガードレール併用型 100m 当り単価表

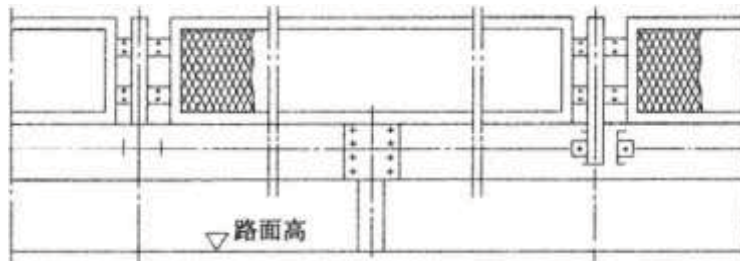
名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 3.4
遮光フェンス		m	100	
取付金具		組	50	
諸雑費		式	1	
計				

5. 参考図

遮光フェンス



遮光フェンス (ガードレール併用型)



1)-11 雪崩発生予防柵 (PC 製) 設置工

1. 適用範囲

本資料は、PC 製の雪崩発生予防柵の設置に適用する。

2. 機種の設定

機械による施工は、次表を標準とする。

表 2.1 機種の設定

持上げ機械 持上げ範囲	トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型]	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型] 排出ガス対策型(第 1 次基準値)
0m 以上～20m 未満	4.9t 吊	—
20m 以上～35m 未満	—	20t 吊
35m 以上～45m 以下	—	35t 吊

(注) 持上げ範囲は、トラッククレーン及びラフテレーンクレーンの場合は機械設置地盤からの直高とする。なお、現場条件により上記機種が困難な場合は別途考慮することが出来る。

3. 施工歩掛

3-1 柵の設置歩掛

設置歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 柵の設置歩掛 (1 基当り)

名称	規格	単位	数量
土木一般世話役		人	0.7
普通作業員		〃	1.2
特殊作業員		〃	2.0
とび工		〃	2.9
トラッククレーン運転	油圧伸縮ジブ型	日	0.6
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第 1 次基準値)	〃	0.6
諸雑費		%	1

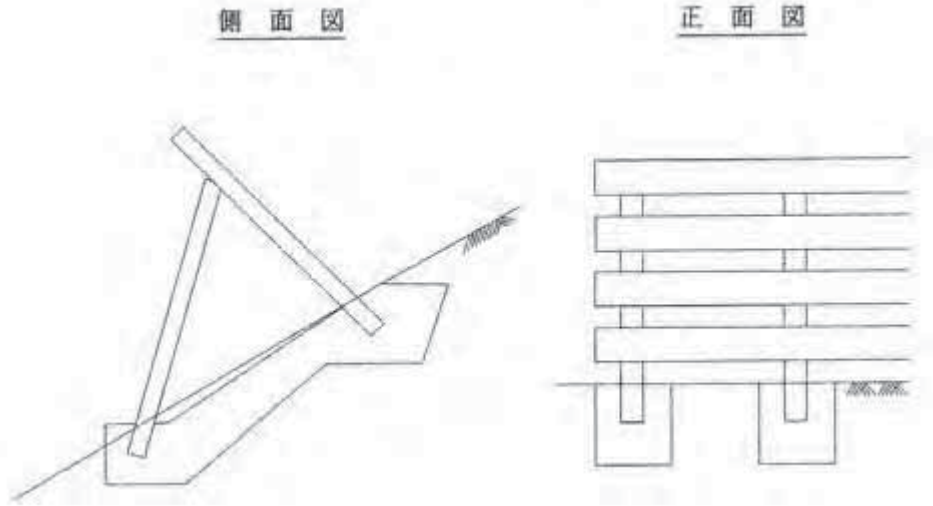
(注) 1. 柵設置歩掛には柵の組立、設置、基礎金物の設置を含み、基礎部分の土工、コンクリート工は含まない。また、足場設置を含むが、型枠設置は別途計上とする。
2. トラッククレーン及びラフテレーンクレーンは賃料とする。
3. 資材運搬作業には、型枠、資材の持上げを含む。
4. 諸雑費は、足場材等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4. 単価表

(1) 雪崩発生予防柵 (PC 製) 1 基当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.7	表 3.1
普通作業員		〃	1.2	〃
特殊作業員		〃	2.0	〃
とび工		〃	2.9	〃
トラッククレーン賃料 又は ラフテレーンクレーン賃料		日	0.6	表 2.1, 表 3.1
柵材料費		基	1	
諸雑費		式	1	表 3.1
計				

5. 参考図

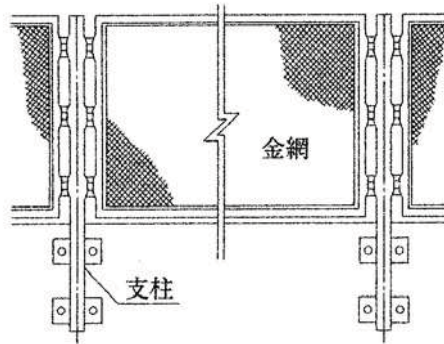


1)-12 落下物等防止柵設置工

1. 適用範囲

橋梁等からの落下物により、沿道に支障がある場合に設置する落下物等防止柵の設置に適用する。なお、金網は、エキスパンドメタル・菱形金網、支柱の設置方法は埋込型・取付型どちらにも適用出来る。

(取付型参考図)



2. 施工歩掛

落下物等防止柵設置歩掛は、次表を標準とする。

表 2.1 落下物等防止柵設置歩掛 (100m 当り)

名称	単位	数量
土木一般世話役	人	3
普通作業員	〃	12

(注) 歩掛には、アンカーボルト設置、支柱建込、金網設置、現場内小運搬を含む。

3. 単価表

(1) 落下物等防止柵設置 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	3	表 2.1
普通作業員		〃	12	〃
諸雑費		式	1	
計				